

## 高齢化と国際資本移動

2002年3月14日、高齢化と国際資本移動に関する会議が東京霞ヶ関のアジア開発銀行研究所会議室で開催されました。Axel Börsch-Supan 教授（マンハイム大学）、Robin Brooks 博士（M F）、Robert De la Rue 教授（南カリフォルニア大学）、伊藤隆敏教授・釣雅雄氏（一橋大学）および Mukul Asher 教授（シンガポール国立大学）が報告した後、高齢化のタイミングが国別にずれることで高齢化の悪影響がどこまで緩和されるか、最大の資本輸出国である日本の状況が高齢化によってどのように変わるか、等について活発な討論が行われました。会議の内容は本プロジェクトの Proceedings No.4 としてまとめられております。



第1回全体集会の会議風景

## 第1回全体集会の開催

2002年4月4日、東京国立の一橋大学佐野書院で第1回全体集会被開催されました。高山憲之教授・鈴木興太郎教授・田中愛治教授・鶴田忠彦教授・井口泰教授がプロジェクト発足以降の研究成果を報告した後、参加者の間で徹底した討論が行われました。その討論を踏まえた研究成果は同年7月に刊行された『経済研究』（「世代間利害調整」特集号,53頁）に収録されております。



井口泰教授

田中愛治教授

鈴木興太郎教授

## 日本経済新聞が本プロジェクトを紹介

2002年4月6日、日本経済新聞「発信源」欄に本プロジェクトの紹介記事が掲載されました。しかも同コラムの記念すべき第1号記事として、です。記事の内容を本ニュースレターの裏面に再録しました。



高山憲之教授 Eli Donkar 博士 坂本純一氏

## E. Donkar 氏が米国年金の将来を語る

2002年4月19日東京神田の総合学術センター・特別会議室で一橋スプリングワークショップが開催されました。当日のスピーカーは米国社会保障庁の E. Donkar 博士。2002年度における米国社会保障年金の財政再計算結果を解説する一方、プッシュ年金改革委員会報告の内容を紹介しました。米国の社会保障年金は2013年以降に赤字に転落すると予測されていること、年金積立金を給付総額の1年分程度保有すること、年金保険料は今後引き上げる予定にないこと、公的年金の一部を個人勘定つき掛金建て制度に切りかえる方向で検討されていること、等が主な内容でした。参加者の質問に対してきわめて懇切丁寧な回答が同博士から寄せられました。

## 高山教授が日本代表として国際会議参加

2002年5月26日、米国の連邦議会歳入委員会室で年金と私的貯蓄に関する国際会議が開催され、高山憲之教授が日本代表として参加しました。世界12カ国の年金と老後貯蓄の形成問題が議論された中で、貯蓄率が比較的高く高齢化の最も進んだ日本に対する関心の高さが改めて確認された会議でした。

## 研究成果の社会への還元

2002年9月6日、東京の霞ヶ関ビル8階のアジア開発銀行研究所会議室で日本学術会議経済理論連絡委員会主催のシンポジウムが開催されました。テーマは「世代間利害調整」です。当日は鈴木興太郎教授司会の下で樋口美雄・高山憲之・鶴田忠彦の3教授が雇用・年金・医療をめぐる当該プロジェクトの中間的な研究成果をそれぞれ発表しました。行政担当者・シンクタンク研究者・大学研究者・報道関係者等100名を超える参加者が報告と質疑応答に熱心に聞き入り、理解を深めました。



鶴田忠彦教授

高山憲之教授 樋口美雄教授